

# 高い親水防汚機能セルフクリーニング

# 親水性クリアコーティング剤

## 汚れやすい塗装面やコンクリート面にも

親水性

耐久性

低帯電性

作業性

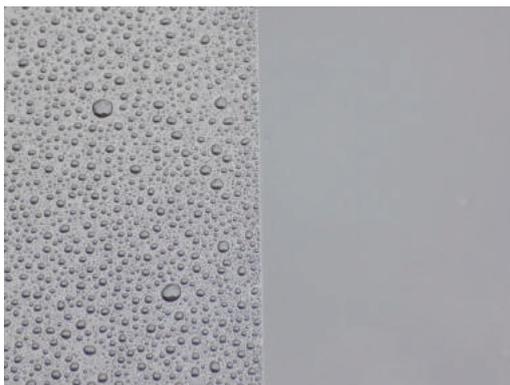
## 汚れは雨で落ちる ハイδροコート

# HYDRO COAT

### 親水性無機系防汚コーティング

建築物の主な汚れの原因は、車の排気ガス、工場からの煤煙等の大気中汚染物質です。それらを含んだ雨水が建物に降り注ぎ、経年と共に汚れが蓄積され徐々に目立った汚れになります。またコーキングの劣化による、汚染物質付着等も主な汚れの一因と言えます。この汚れを抑制するために、親水機能（水が馴染み油・ホコリを寄せない）を持たせながらも建物の外観を変えない『ハイδροコート』を塗布することで、結晶化した無機質皮膜の親水機能により、雨と帯電防止の力で汚れ・雨だれを抑制します。施工後は、お掃除知らずのメンテナンスフリーでセルフクリーニング。1ヶ月で美観保持機能が体感でき、長期間美観を保つことが可能です。

## ハイδροコート塗布試験



親水性



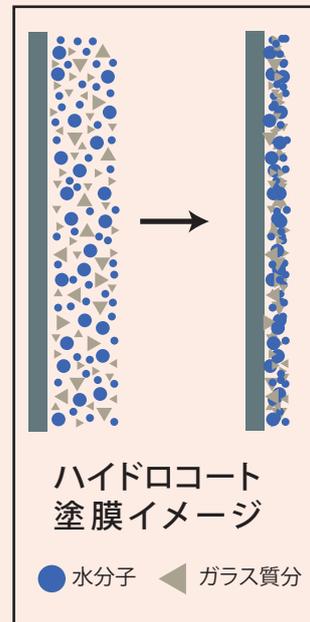
防汚性（3年経過）



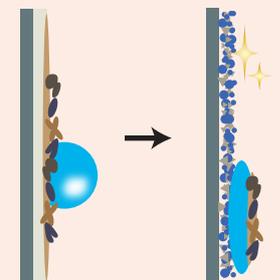
帯電性

## ハイδροコートの原理・技術

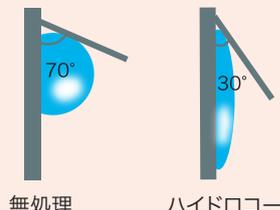
ハイδροコートは、高純度の石英系ガラス質成分を特殊電荷製法により溶出させたナノメートル石英系ガラス質分子の製品です。対象物表面に塗布・吹付することによって微弱電流が発生し、電気的にイオン接着し瞬時に被膜を形成します。（メッキと同様）分子間まで反応しナノメートルレベルの被膜を形成し、対象物表面をガラス質特有の親水性をもたらし耐久性のある表面保護を形成します。



■ 親水性による、雨水自己洗浄メカニズム



■ 親水性能の高さは、塗布面と水の接触角で判断できる。



無処理

ハイδροコート



15kg



4kg

	塗布可能面積
15kg	300㎡～500㎡
4kg	80㎡～133㎡

塗布量	0.03kg～0.05kg/㎡
外 観	微濁液体
成 分	水溶性シリカ系塗料
	弱アルカリ性
耐久性	SWOM1000h異常なし※
	現状現場5年の実績

※SWOM1000h: 屋外4年に相当

### ・トップコート仕様

工 程	工 程 名	商 品 名	塗 布 量 (kg/㎡/回)	希 釈 (%)	乾 燥 時 間 (20%)
工程①	プライマー	下地別プライマー			
工程②	上 塗 り	BOTSP	0.15～0.2	0～5	2時間～
工程③	上 塗 り	BOTSP	0.15～0.2	0～5	2時間～
工程④	ト ッ プ	ハイドロコート	0.03～0.05	0	—

### ・コンクリート仕様

工 程	工 程 名	商 品 名	塗 布 量 (kg/㎡/回)	希 釈 (%)	乾 燥 時 間 (20%)
工程①	プライマー	セキザイプライマー	0.15～0.2	0	30分～1時間
工程②	上 塗 り	フロアコート	0.15～0.2	0	30分～1時間
工程③	ト ッ プ	ハイドロコート	0.03～0.05	0	—

※フロアコートとは「二液・水性アクリルウレタン樹脂系クリアコーティング剤フロアコート」の略称です。

## ハイドロコート塗装上の注意

#### 1. 塗膜剥離に関する件

- ①メーカー指定の塗材を使用する。  
・他社メーカーの材料を組み合わせると、接着力や耐久性に不具合が起こる可能性があるため、メーカー指定の材料を使用する。
- ②溶剤系の塗料が使用された場合は、ハイドロコートは水系塗料であるので接着不良やハジキといった不具合現象が起きる可能性が非常に大で、サンダー等で除去し水系プライマーを塗布後ハイドロコートを施工する。
- ③1回塗り以上、または仕様以上の塗布量の場合、白濁のおそれがあります。

#### 2. 低温・高温・多湿(5℃以下35℃以上湿度85%以上の環境条件)での施行回避

- ・上記の環境条件の場合は塗膜強度の発音が遅くなる為施工は避ける。  
(水の蒸発が低温・多湿の場合だと水の飛びが遅く塗膜形成が著しく遅くなる。又、高温の場合ローラー目や刷毛目ができ美観を損なう為。)

#### 3. 塗装できない下地

- ①下地の塗装でフッ素コーティングやシリコンコーティングの場合接着力が確保できない為、(接着しない。)ハイドロコートの塗装は避ける。
- ②PP(ポリプロピレン)の下地はハイドロコートが接着しないため塗装は避ける。
- ③脆弱な下地

#### 4. 施工に関して

- ①雨天の場合は施工を見送る。(晴れていても、急速に曇ってきた場合施工を中断する。)
- ②塗装時及び塗装後は換気を良くする。(塗膜の形成が遅くなるため。)
- ③水系塗料なので希釈する際には溶剤は使用しない。(塗料分離や感想不良が起こる。)
- ④送風機による空気循環を行う。(特に湿度が高い場合は塗膜乾燥が極端に遅くなる為。又、風は直接塗装面には当てないようにする。)

### 【製造発売元】

## BOT株式会社

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11  
TEL:03-5577-5560 / FAX:03-3527-1931  
<http://www.botsp.co.jp>

### 【販売代理店】